

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	5年時	6年時	5年時	6年時	5年時	6年時
H29 入学 現6年生	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	全国 (4月)
	47.8	62	32.2	57		58
	(0.82)	(0.97)	(0.76)	(0.92)		(0.94)
	R4 正答率の全国比	0.95		0.90		0.92

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○国語・算数・理科ともに県または全国平均を下回っている。

【国語について】

- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」項目においては、全国、県平均を10ポイント以上上回っており、漢字の定着はできている。
- ・「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」項目においては、正答率が高く、授業の中に交流活動を仕組んできたことが、成果として表れ始めていると考えられる。
- ・「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」という「書く」ことの正答率が低い。自分の考えを書く、資料をつなぎ合わせて書くということを苦手としている児童が多い。
 （「書く」ことにおいては、全国、県の正答率も低い。）

【算数について】

- ・「式と計算」領域については県平均を上回っている問題もある。基礎的な事項は身に付いている。
- ・「図形」に関する項目は、正答率が低い。図形の基礎的な事項は理解できる。しかし、図形の形が変わり、変わった理由等を図形の基礎的な事項を入れて説明するような問題となると、苦手意識をもっている児童が多い。
- ・算数全体を通して、与えられた問題の中から、問われた内容と合致するような情報を選び出すことができていない。

【理科について】

- ・基礎的な事項は身に付いている。
- ・「得た情報を基に、自分の考えをもち、その内容を記述できる」「実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」の項目の正答率が低い。

- ・算数同様、与えられた問題の中から、問われた内容と合致するような情報を選び出すことができていない。

基礎的な部分については正答率が高いものもある。身に付けた理解が曖昧になっている部分もあるので、定期的に復習をしていくことが必要である。また、自分の考えを「書く」力を付けていくためには、自分の考えをもつことができなければならない。授業だけでなく、日常の活動においても、「自分の考えをもつ」「自分の考えを表現していく」場を、数多く設けていく必要があると考える。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 自己の考えを形成するための授業実践
 - ・今年度の校内研究のテーマである『自分の考えを形成し、主体的に伝え合う』部分に焦点を当てて取り組んでいく。具体的には、「①思考ツールを用いた思考力・表現力の育成」、「②ICT 機器の効果的な活用方法についての研究」の2点を中心に据える。
- 基礎基本の定着と活用力を育成する授業の実践
 - ・「授業づくりのステップ1・2・3 vol.1&2」を基本とした授業づくりに努める。授業の「めあて」を達成するまでの道筋をはっきりさせ、学んだことを「まとめる」という流れをしっかりと作る。
 - ・必要な条件や具体的な書き方などを示した上で、「書く活動」を多く取り入れていく。
- 主体的な学びを促す環境の整備
 - ・デジタル教科書やプレゼンテーションソフト、動画などを使い、問題の具体的な場面を想起させたり、実際には確認しにくいもの（理科など）を電子黒板を使って確認させたりすることで、学習への興味・関心を高めていく。
 - ・学習環境を整備していく。既習事項や児童が身に付けなければならない学習用語などを掲示し、書いたり話したりする際の参考にさせていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 朝の時間「花まるタイム」で、思考力を高めるための問題や思考ツールを効果的に用いる技能を身に付けさせる活動を取り入れていく。目的意識をよりはっきりさせることで効果的な取り組みにしていく。
- 家庭におけるタイムマネジメント力の育成を図る。
(児童質問紙より)
 - ・「普段(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」
4時間以上と答えた児童・・・約20%
 - ・「学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」
30分以上、1時間より少ないと答えた児童・・・約35%
30分より少ないと答えた児童・・・約6.5%

帰宅後のゲーム等の時間を減らし、学習する時間を少しでも増やしていこうとする意識の定着を目指し、夏休み明けから「生活チェック週間」を設定する。保護者の協力を得ながら、時間ごとに何をしたのか記録させていく。年間数回、設定していく予定である。